

自転車競技選手の学生生活満足度について

日本語学ゼミナール 1216165 松山 達人

1. 研究動機・研究目的

近年、日本の4年制大学への進学率は年々増加しており、平成30年度の文部科学省の調査の結果、日本の若者の53.3%が4年制大学へ進学していることが分かった。また大学への進学率が増加したことにより、スポーツ推薦という形で入学をする学生も一昔前よりも増加した。しかしスポーツ推薦で入学をするといっても、必ずしもスポーツに関連した学部・学科に入学するものばかりではなく、むしろその多くはスポーツとは関係のない学部・学科へ入学するものがほとんどである。そういった学生が学生生活にどのような不満を抱いているのかを対象を大学生自転車競技選手に絞って調査をしようと考えた。自転車競技に絞ったのは、日本では自転車競技はまだマイナースポーツであるため研究価値があると考えたためである。また本研究は大学への進学を考えている高校生自転車競技選手がどのような点を重視して大学への進学を決めればいいのかも明らかにできるのではないかと考える。

2. 研究方法

本研究では、自転車競技選手の学生生活満足度について調査するために、全国の自転車競技を行う大学生44名にGoogleフォームを用いて作成したアンケート調査を実施した。

このアンケートでは、以下の事を調査内容としている。

- ・学生自身がその生活に満足しているかどうかを調べる「主観的満足度」の調査
- ・大学における授業や成績などに満足しているかどうかを調べる「学業に関する満足度」調査
- ・クラブ活動における練習環境や部活動の内情に関する満足しているかどうかを調べる「部活動満足度」の調査
- ・入試区分（推薦入試組と一般入試組で差異が見られるため）
- ・「学業」「部活動」におけるあらゆる不満点

これらの項目を比較し、大学生自転車競技選手の大学生活における不満点などを調査した。

3. 主な結果と考察

本研究において、明らかになったことは2つ。

1つ目は、大学生自転車競技選手が学生生活において不満に思っていることである。学業面においては「授業についていけない」といった回答が多く大学生自転車競技選手は、勉強に大変困っているということが明らかになった。競技面では「交通量が多く練習場所がない」といった回答が多かった。このことから大学生自転車競技選手は交通量の多い都心

部の大学へ行くより、交通量が少なく自然に囲まれた地方の大学へ進学した方が、競技面においては充実した学生生活を過ごすことができるのではないかと考えられる。

4. 結論

本研究を通して、大学生自転車競技選手が学生生活に対して、大学内での練習環境よりも学外における練習環境に対して不満を持っている学生が多いということが分かった。反対に学内での練習環境に対しては、「トレーニング設備が充実している」といった点に満足している回答が多くあった。このことから、ロード練習をメインで行う学生は、都心部のような交通量の多い場所にある大学へ進学するよりも、交通量が少なく自然に囲まれた地方の大学へ進学した方が、競技面においては充実した学生生活を過ごすことができるのではないかという結論に至った。

5. 卒業論文の執筆を終えて

卒業論文の執筆をしていく中で、自身の作成したアンケートでは明かにならないことが多くあり推察で書いた部分が多くあり、自身の準備不足さに苦しむということが多々あった。今回の卒業論文に限らず前準備が足りずに後になってから後悔をすることが多くあるため、今後は準備を怠らないようにしたいと今回の卒業論文の執筆を終えて改めて思った。